

世界のIT事情 ベトナム編

80年代に始まったドイモイ（刷新）政策により、社会主義体制の下に経済が自由化された後、21世紀に入り急成長を続けるベトナムのインターネット環境をレポート。

12年間で155倍の増加率 急成長するベトナムのIT産業

近年、めざましい発展を遂げているベトナムのインターネット人口は約3,130万人。人口約9,170万人に対して普及率は30%ほどだが、2000年以降、驚異的な速度で普及率を高めている。最大の要因はベトナム経済の活性化にある。70年代のベトナム戦争での傷跡から脱却し、経済を自由化したことにより国民所得は上昇した。一人あたりのGDPは1,500ドルを超え、最貧国から中所得国へと成長した。

また、国としても、2020年までにICT産業を180億ドルに拡大させ、IT技術者を100万人に増やすという明確な目標を持っている。そのため、2006年から5カ年計画で通信インフラの整備と技術者の育成に力を入れてきた。ブロードバンド事業は国有化され、近隣諸国よりも格安でインターネットを利用できる環境を整備。2009年には、3Gモバイルサービスも始まっている。2010年以降も、ネット契約者数は100人あたりの比率で4倍、3Gモバイルの契約者数も2倍に増加。2012年までの統計も加えると、21世紀に入ってからの12年間で、インターネット人口は155倍に膨れ上がったことになり、現在も成長を続けている。

携帯電話普及率100%超 2台持ちが当たり前

総人口のうち、29歳以下が半数以上という若さあふれるベトナムでは、インターネット利用者も若者が中心。若者たちはかつて敵であったアメリカへの抵抗感も薄れ、英語を学びiPhoneやiPadを使っている。

携帯電話普及率も100%を超えており、スマートフォン普及率は約30%。ホーチミン市やハノイなど、都市部では2台以上持っているのも普通だが、農村部にも環境整備を進めて利用者を増やしている。携帯電話会社は「Viettel」「VNPTグループ」などが人気となっている。

ブロードバンド事業もVNPTグループが50%以上のシェアを誇る。人気ポータルサイトは「Zing.vn」で、同社の運営するSNS利用率が高いが、Facebook利用者もこれに匹敵する勢いで加入者を増やしている。

実は、社会主義国であるベトナムでは、Facebookの接続にプロテクトをかけており、ベトナム国内ではつながりにくくなっている。しかし、海外経由やモバイルからの通信は可能なため、ベトナムの若者たちは簡単にプロテクトを破ってFacebookを利用している。海外の人と積極的に交流したいという意欲が強いため、ベトナムの若者は友達が1,000人を超えているのが普通だ。若者たちの熱意は規制では止められないようだ。

参考資料：『東南アジアを知るための50章』今井昭夫編集（明石書店）、『新版 東南アジアを知る事典』桃木至朗ほか著 石井米雄ほか監修（平凡社）